



令和6年4月4日

研修だより3号

教育観を磨く取組

小笠原康晃

後日先生方に改めてお伝えしたいと思っていることです。

研究テーマの具現化が、校内研修のゴールです。研修とは「研究」と「修養」です。

「研究」とは「授業研究」のこと、「修養」とは、「職員研鑽」のことだと考えています。

どちらも、校内研修のゴールに向かって取り組むことです。

このような校内研修を通して、先生方の「教育観」を磨くことができると、私は考えています。

そして、それこそが「職員研鑽」であると捉えています。

研究授業のための教材研究。

事後研究での話し合い。

このような活動を通して、若手、中堅の先生はベテランの先生から教材観や児童観などの教育観を学ぶことができます。

学年部会や生徒指導・人権委員会でも、様々な話し合いが行われます。

これらは「会議」となっていますが、このような会議を通して教育観を磨くことができます。

学校で行われている一つ一つの活動は、「教育観」を磨くための活動に繋がっています。

何気ない雑談の中にこそ、大切な物が含まれています。

本年度は学年団で協力していく場面が多くなると思います。

笠原小の良さを活かすということであれば、学年をまたいで、どんどんいろんな先生と話をすることも大切だと思います。

いろんな先生と話をすると、いろんなことがいることができ、楽しいですよ。

校内研修を通して、教育観を磨く。

そのことが必ず授業に還ってきます。

ぜひ、いろいろな先生とお話をしていきましょう。